

弘前大学ボランティアセンター (HUVC)

News Letter

第5号

平成29年度 除雪ボランティアに参加して(2018年1月27日)

平成30年1月27日(土)、文京町において今年度第1回目となる除雪ボランティア活動を行いました。この活動は、平成24年度から毎年実施しているもので、今回は、弘前大学からは柔道部をはじめ、32名の学生が参加し、弘前市道路維持課、弘前市防災マイスター連絡会の方々からサポートを受けながら作業をしました。

今回の除雪範囲は弘前大学正門からUマートまでの歩道で、スノーダンプやラッセル、スコップといった道具を駆使して除雪していきました。雪の量自体は、さほど多くはありませんでしたが、固く凍って路面に張り付いており、それらを剥がすのに時間がかかりました。しかし、大人数で協力し合いながら取り組んだことで、安全かつ効率的に歩道上の雪を処理していくことが出来ました。

まずは、スコップで固まった雪や氷を崩し、それらをスノーダンプに載せて運び、流雪溝に流すといった一連の作業ですが、学生の中には、普段雪かきをする機会がない、またそもそも雪かきの経験自体がないという方もおり、他の参加者に助言していただきながら作業に取り組んでいました。普段雪かきを行う機会のない学生にとっては新鮮だったようです。しかし、今回の除雪ボランティア活動に参加したことで、雪かきの大変さと、多くの方と協力して行うことの重要性、そして達成感と、様々なことを体験することが出来たのではないかと思います。

さて、今回の活動実施にあたり、弘前市道路維持課や弘前市



固まった雪を崩すことからの作業

防災マイスター連絡会と連携し、また、除雪した地域の住民の皆様、歩行者など多くの方々にご理解とご協力をいただいたことで、無事に活動を実施することが出来ました。参加学生も多く、効率的に除雪を行うことが出来ました。来年度の除雪活動においても、多くの関係者の皆様と密に連携していければと思っています。弘前のまちなかの安全確保のため、来年度もどうぞよろしくお願い致します。

(担当：教育学部 4年 垣内雅仁)



「流雪溝」に排雪



よせ雪を除去して歩行者の安全確保

野田村クリスマス会2017(2017年12月22日)



みんなで「できた！」

平成29年12月22日(金)、野田村児童センターでクリスマス会を開催しました。李副センター長、弘前大学ボランティアセンター学生事務局4人、一般学生の希望者3人の計8人が参加しました。

今年は、毛糸で丸いポンポンを体と頭に見立てて2つ作り、それを繋げ、それぞれ好きな色の毛糸やフェルトを使い、マフラーや帽子で飾り付けた自分だけの雪だるま作りと、カラフルな白玉を粘土のようにくっつける創作白玉の2つの企画を行い、野田村の子供達と触れ合ってきました。今年は低学年の子供が多く、児童センターについた途端じゃれ合いのスタートでした。

まずは、ポンポン雪だるま作りを行いました。子供達が一番苦労していた作業は毛糸を指に巻く作業のようでした。途中で飽きてしまったり、男子に多かったのですがきつく巻いてしまい指からなかなか抜けなかったりと、苦しみながらもなんとか

完成しました。白い雪だるまばかりが出来るのではと思っていましたが、中には体の部分をピンク色にしたり、頭と体、どちらも緑色にしたりと、子供達の想像力に驚かされました。最後に完成した雪だるまを模造紙で作ったツリーに貼って記念撮影をしました。「これ持って帰っていいの?」と聞いてくれたり、2つ目の雪だるまを作り始めたり、子供達にとって世界に一つだけの雪だるまになったようで、企画した私達も嬉しかったです。

続いて、白玉作りにとりかかりました。手がベタベタになったりしながらも雪だるま同様に個性豊かな白玉が出来上がりました。茹でた後、きな粉とあんこ、好きな方を選んでもらい美味しく頂きました。そして、簡単なレクリエーションを行い、クリスマス会を終了しました。

今回は2つとも子供達が自由に創作するものを企画しました。お互いに何を作ったか自慢し合ったり、帰りに雪だるまを大事そうに持ち帰る姿を見て、企画を頑張った良かったなと思えました。私は今回が初めてのクリスマス会でしたが、帰りに「またね」、「夏の宿泊学習も来てね」などの嬉しい声を聞くことが出来ました。野田村での活動は、子供達はもちろん、学生の成長にもつながると感じました。弘前大学ボランティアセンター学生事務局は夏の宿泊学習、クリスマス会、その他の交流活動を継続していきたいと思っています。これからも変わらぬご支援よろしくお願い致します。

(担当：人文社会科学部1年 磯野雄太郎)

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- ・ 弘前市民の方・・・弘前市ボランティア支援センター TEL：0172-38-5595
- ・ 弘前大学関係者・・・弘前大学ボランティアセンター E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。

詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧ください。センターへ直接お電話等でご相談ください。

(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- ・ 弘前大学ボランティアセンター・・・HP：<http://huvc.net/> TEL：0172-39-3268
平日午前10時～午後3時

平成29年度第1回市民ボランティア講座&ワークショップを開催(2017年6月23日)

平成29年6月23日(金)、より多くの弘前市民や学生にボランティア活動の実状や、その重要性を幅広く理解してもらい、ボランティア活動へ積極的な参加を促すことを目的として、「平成29年度市民ボランティア講座&ワークショップ」を開催しました。藤女子大学人間生活学部人間生活学科准教授 船木幸弘氏をお招きし、「ボランティア・マネジメント基礎編」から過去のボランティア組織についての研究をベースに、ボランティアとは何か・ボランティアがなぜ必要なのか・成功するボランティア組織とはどのようなものかなどについて講演いただいた後、学生、本学教職員、市民ボランティアの方々など14名が参加し、それぞれの立場から見たボランティア(ボランティア参加者)についてなど、ワークショップを行いました。

特に、ボランティアを含む活動組織の在り方に関して、有給スタッフと無償ボランティアの関係性や、規律の必要性についてなど、ボランティア関係者の興味を引く話題が提供され、ワークショップや質疑応答では時間に収まらない程の活発な議論・意見交換が行われるなど、大変有意義な講座となりました。(担当：弘前大学社会連携課)



開講の挨拶をする李副センター長



会場全体の様子



講演する船木幸弘氏

サイバー防犯ボランティアが始動しました(2017年11月13日)

平成29年11月13日(月)、私たち弘前大学サイバー防犯ボランティアは青森県警察本部から委嘱状を受け、活動を本格的にスタートさせました。現在は15人で活動しています。

主な活動内容は、県警の方々の協力をいただきながら、スマホやインターネット、SNSの正しい使い方や利用する際に気を付けるべき点などといったテーマの視聴覚教材を学生自ら作成し、小・中学校を中心に、全校生徒に対して講演を行うものです。また、インターネット上に違法・有害情報、危険な書き込みなどを発見した際には、インターネット・ホットラインセンター(<http://www.internethotline.jp/>)へ通報することも活動の一つです。いずれは保護者向けの講演や学級単位の特別授業といった形式の活動も行っていければと考えています。主に学期末に依頼が多く来るので、現在はその講演活動に備えて打ち合わせを重ねています。これらの企画・進行を行っていくにあたっては、これからの社会を生きていくうえで必要不可欠である、「情報」に詳しくなることができたり、社会人の方々と接する機会もあつたりと自分たちにとっても貴重な経験を積める場となっています。

活動を開始してからまだ日は浅いですが、今後はさらに活動を拡大させて一般市民向けの講演や、県内の他大学のサイバー

防犯ボランティアと協力した活動を行うことができると考えています。弘前近郊だけではなく青森県全体として、子どもたちをはじめ誰もがインターネットやSNSを安全に利用することができるように、精一杯活動していきたいと思えます。

(担当：人文学部3年 高木利彬)



委嘱状交付式

平成29年度 第2回市民ボランティア講座での気づき(2018年1月26日)



段ボールベット組立の様子



講師の丸目陽子氏

平成30年1月26日(金)、第2回市民ボランティア講座が開催されました。第1部の講演では、平成28年の熊本地震発生時に熊本県益城町総合運動公園指定管理者として避難所を開設・運営した熊本YMCAの丸目陽子氏に、地震発生時及びその後の避難所の経過について、運営している方からの目線で様々な観点から解説いただきました。私はこれまで、震災を経験した当事者の方から当時の被災地の実態について拝聴する機会が無かったため、今回の講演によって、防災を考える上で重要となる現実的かつ実践的な要素(避難者との接し方や、運営の役割分担など)を考慮することの大切さに初めて気づくことができました。

第2部の「避難所設営訓練・体験」では、3つのブースを回り、災害に関する知識の習得を目的とした避難所設営ゲームや心肺蘇生の模擬訓練を行ったりしました。中でも新鮮だったのが、

段ボールでベッドや仮設トイレを組み立てるという体験です。材料さえあれば簡単に組み立てられると思えるくらい、手軽に作ることができることに驚きました。とはいえ、事前に作り方を知っているかいないかで緊急時の対応に大きな差が生まれることは間違いないと思いました。(余談ですが、段ボールベットの寝心地が良かったです。)

最後に、今回の講座は「市民ボランティア講座」という題目であったわけですが、私たち学生の参加者も多く見られました。市民の方々と設営ゲームなどを通してコミュニケーションをとっているのを見て、地域住民との繋がりを楽しく講座という側面もあったように感じ、このような実践的な講座を続けていただくことで、未来の「まさかの災害時」には、そこで得た知識とコミュニティがきっと役立つのではないかと考えます。

(担当：人文学部 3年 山崎 健)



防災を学ぶ避難所設営ゲーム



模型とAEDを使用しているの救急救命体験

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC) 平日午前10時～午後3時

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL: 0172-39-3268 FAX: 0172-34-5251 E-mail: huvc@hirosaki-u.ac.jp